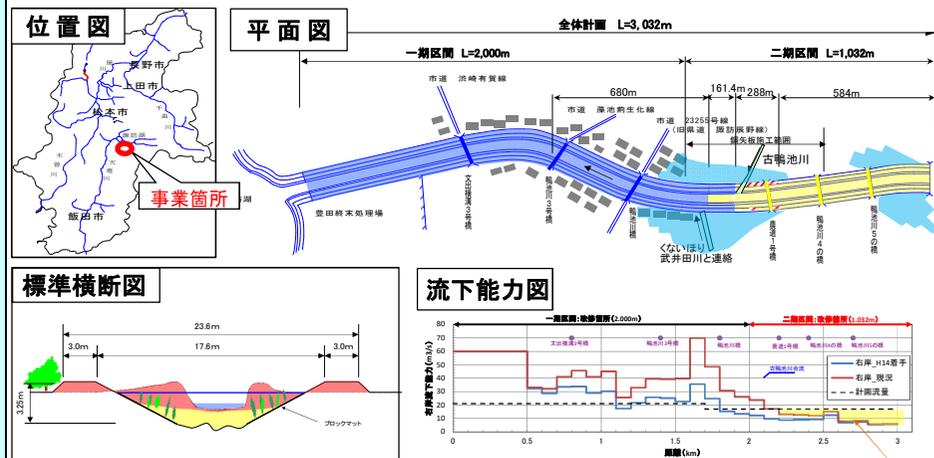


(様式1-2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名	河川		路河川名等	(一)鴨池川		
事業毎の通番	1	市町村名	諏訪市	箇所名(ふりがな)	小川(こがわ)	
事業目的	諏訪湖東南部の軟弱な沖積層地帯は地盤沈下が発生しており、過去に幾多の水害を受けてきた。また、この地域はかつての水田地帯が住宅化しつつあり、既存市街地を含めて人家への水害が懸念される。昭和42年度に諏訪湖の河川改修事業に着手し、その支川対策及び地盤沈下による内水対策として平成2年より事業着手した。平成18年7月豪雨において諏訪湖からの逆流による被害が発生したことから、河口部に水門を建設し、一期区間が完了した。その後、氾濫原を同じとする隣接河川の武井田川の改修が概ね完了したことから、鴨池川の改修を進め浸水被害の防止を行う。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	河川法		
関連する事業、計画等	天竜川水系諏訪圏域河川整備計画					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	想定氾濫区域内の人家戸数：28戸 想定氾濫区域内の農地面積：16.1ha 想定氾濫区域内の公共施設：公民館、生活道路(県道、市道)					
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	2.8	国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	*河川改修(護岸工) L=1,034m(Q=21m <sup>3</sup> /m)			900,000	450,000	0 405,000 45,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	浸水戸数の解消：28戸				
	間接的効果(定量的・定性的)	河川沿線土地利用の促進				
評価の視点	必要性	○想定氾濫区域内の人家戸数：28戸 ○想定氾濫区域内の公共施設：公民館、生活道路(県道、市道) ○浸水想定区域内の農地面積：16.1ha ○要配慮者利用施設の有無：あり				評価
	重要性	○過去の浸水履歴：平成18年7月19日 床上浸水1,076戸(諏訪湖含む) ○交通遮断による影響：市道23255線(旧：諏訪辰野線)の浸水あり ○重要水防区域：重要水防区域あり				評価
	効率性	○費用対効果(B/C)：2.8 ○事業期間：6年間 ○工法等の比較検討：護岸構造(軟弱地盤対策)について検討あり				評価
	緊急性	○近年の自然災害発生状況：近年5年以内に近傍で自然災害あり ○近年の水防回数：近年5年に水防活動巡視あり ○現況流下能力：33% (Q=7m <sup>3</sup> /s) ○護岸等河川施設の種類：築堤				評価
	計画熟度	○事業情報の共有：全体計画については地元説明会を実施済 ○地域の取り組み：期成同盟会等地元からの強い要望があり、積極的な取り組みがある ○地域の合意形成：合意形成が図られている ○住民との協働：地元自治会と協働でゴミ拾いや草刈り等の維持管理活動を実施 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 課題整理表 整理表番号4-4 4維持管理				評価
所管課の意見	当該河川の保全対象には、人家、公共施設等があり、平成18年をはじめ、度々浸水被害を受けていることから、河川改修を早急に実施する必要がある、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する			○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	・平成17年まで進められた河川改修事業は、平成18年7月に発生した豪雨災害に伴い大きな軌道修正が行われた。本出水は諏訪湖からの逆流により大惨事となったことから、河川激甚災害対策特別緊急事業として鴨池川と武井田川の河口部に水門が建設された。 ・両河川は整備計画規模が同じで、河川延長や勾配がほぼ同程度となっている。武井田川から整備が進められたが、目的が現在の、早急に鴨池川の整備が必要となっている。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・本事業区間は、流域周辺の開発等により宅地化が進み、近年のゲリラ豪雨等による出水による浸水被害が懸念されており、流下能力不足の解消を目的とした河川改修が要望されている。(武井田川・鴨池川整備促進期成同盟会提言)		
	③事業説明等の経緯	・諏訪市の関係者を中心に事業説明を進めている。 ・地元説明を行い調査業務を実施。		
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・平成20年7月に信濃川水系河川整備方針策定(国土交通省中部地方整備局) ・令和2年6月に天竜川水系諏訪圏域河川整備計画変更申請(長野県) ・令和3年3月に天竜川水系緊急治水対策プロジェクト策定予定(国土交通省、長野県、流域市町村)		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	・自然環境に配慮した護岸形式の検討を行う。		
	⑥地域活性化への影響と配慮	・本事業により治水安全度の向上が図られ、河川沿線に市道が整備される等、周辺の土地利用の促進が期待される。		
	⑦その他	・コスト削減、建設副産物削減等の工法の検討を行う。		
事後・再評価からのフィードバック	○事後評価結果を参考に、維持管理にも視点をおいた事業の実施を図る。		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 0' 56" 08 東経:E 138° 5' 55" 74

(様式1-2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名	河川		路河川名等	(-)木曾川		
事業毎の通番	2	市町村名	上松町~木祖村	箇所名(ふりがな)	諸原(もろはら)~葦原(やぶはら)	
事業概要	事業目的	本地域は、山岳地帯を縫って流れる木曾川に点在する平地に市街地や集落が点在し、県道や病院等の重要なインフラも木曾川沿いに存在している。しかし、流下能力の不足により洪水被害が生じており、昭和58年9月の台風災害では床上浸水206戸、床下浸水247戸と甚大な被害に見舞われた。 再度災害を防止するため、流下能力が不足している箇所の改修を行い、沿線住民の生命と財産を守りたい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	河川法		
	関連する事業、計画等	○木曾川水系流域治水プロジェクト(令和2年度策定予定)				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	○氾濫区域内の人家戸数 : 252戸 ○想定氾濫区域内の公共施設 : 主要道路、生活道路、病院、要配慮者利用施設				
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	3.9	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	河川改修 L=0.7km		300,000	150,000	0 135,000 15,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	浸水戸数の解消			
		間接的効果(定量的・定性的)	内水氾濫解消による地域の定住化、土地利用の促進			
	評価の視点	必要性	○氾濫区域内の人家戸数 : 252戸 ○想定氾濫区域内の公共施設 : 6施設 鳥居本町線、県立木曾病院、木曾合同庁舎、下水中継ポンプ場、変電所、要配慮者利用施設 ○浸水想定区域内の農地面積 : 0.9ha ○要配慮者利用施設の有無 : あり			評価
重要性		○過去の浸水履歴 : S58.9.28(床上浸水206戸、床下浸水247戸) ○交通遮断による地域経済への影響 : 県道、病院への道路の浸水 ○重要水防区域 : 6箇所			評価	A
効率性		○費用対効果(B/C) : 3.91 ○事業期間 : 6年間 ○工法の検討 : 護岸構造の検討			評価	A
緊急性		○近年の自然災害発生状況 : R2.7豪雨 ○近年の水防回数 : R2.7.7、H30.7.6 ○現況流下能力 : 最小49% ○護岸等河川施設の種類 : 築堤・掘込護岸(ブロック積み)			評価	A
計画熟度		○事業情報の共有 : H27 地元説明会実施(関係者を限定しない) ○地域の取り組み : 例年木曾6町村長による国・県要望が実施されている。 ○地域の合意形成 : 地元説明会により事業目的について合意形成が図られている。 ○住民との協働 : 周辺住民の河川愛護活動等による維持管理活動の実施 ○事後・再評価からのフィードバック : 事後・再評価 課題整理表 整理表番号:4-1			評価	A
所管課の意見	近年では、平成30年西日本豪雨、令和2年7月豪雨と、氾濫寸前まで水位が上昇した経過があり、地元からも早期改修の要望が非常に強いことから、早期の整備が必要であり、事業着手が妥当と判断する。		採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表

事業周辺環境

木曾町川西 改修位置

標準横断面

現況

台風23号による出水状況  
(木曾町福島 広畔橋H16.10.20)

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本地域は、山岳地帯を縫って流れる木曾川に点在する平地に市街地や集落が点在し、県道や病院等の重要なインフラも木曾川沿いに存在している。しかし、流下能力の不足により洪水被害が生じており、昭和58年9月の台風災害では床上浸水206戸、床下浸水247戸と甚大な被害に見舞われた。 再度災害を防止するため、流下能力が不足している箇所の改修を行い、沿線住民の生命と財産を守りたい。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	過去の浸水被害を受け、毎年町村長から県へ河川改修事業促進についての要望がある。
③事業説明等の経緯	・町村や地元の関係者を中心に事業説明を進めている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	令和2年度末に木曾川水系緊急治水プロジェクト策定予定(国土交通省、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、流域市町村)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	自然環境に配慮した護岸形式の検討を行う。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域の治水安全度が向上し、商業施設の整備や定住化等、地域の活性化が期待される。
⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック

○計画的に河川施設の点検を行い、効果を継続させる維持管理の取組を参考にしたい

事業代表地点の緯度経度

北緯: N 35° 50' 20"

東経: E 137° 41' 13"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名	河川		路河川名等		(一)隈取川		
事業毎の通番	3	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	豊野町石(とよのまちいし)		
事業目的	浅川流域では、昭和57年、昭和58年、平成7年、平成16年、令和元年など浸水被害が度々発生している。隈取川は、その浅川の支流であるが、現況では流下能力が不足している。また、沿川には多くの資産等が蓄積しており、越水した場合には甚大な被害が想定されるため、築堤および護岸工を整備することで、浸水被害を防止し、沿川住民の生命・財産を守りたい。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		河川法		
関連する事業、計画等	<input type="checkbox"/> 信濃川水系河川整備基本方針(平成20年6月 国土交通省北陸地方整備局) <input type="checkbox"/> 信濃川水系長野圏域河川整備計画(令和3年度策定予定)						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	<input type="checkbox"/> 氾濫区域内の人家戸数 : 104戸 <input type="checkbox"/> 想定氾濫区域内の公共施設 : 主要道路、生活道路、鉄道、その他施設						
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	3.6	国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	河川改修 L=0.81km			950,000	475,000	0 427,500 47,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	県道・鉄道等の交通遮断の解消、浸水戸数の解消					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の活性化					
評価の視点	必要性	<input type="checkbox"/> 氾濫区域内の人家戸数 : 104戸 <input type="checkbox"/> 想定氾濫区域内の公共施設 : 5施設 <input checked="" type="checkbox"/> 主要道路(一般県道長野豊野線)、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活道路(市道豊野田園都市線)、 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄道(しなの鉄道)、 <input checked="" type="checkbox"/> その他施設(南石集会所)、 <input checked="" type="checkbox"/> 農道 <input type="checkbox"/> 浸水想定区域内の農地面積 : 27ha <input type="checkbox"/> 要配慮者利用施設の有無 : 無し				評価	B
	重要性	<input type="checkbox"/> 過去の浸水履歴 : H16.10.20、R1.10.11(床上浸水2戸、床下浸水11戸) <input type="checkbox"/> 交通遮断による地域経済への影響 : 一般県道長野豊野線、市道豊野田園都市線、鉄道(しなの鉄道) <input type="checkbox"/> 重要水防区域 : なし				評価	B
	効率性	<input type="checkbox"/> 費用対効果(B/C) : 3.63 <input type="checkbox"/> 事業期間 : 6年間 <input type="checkbox"/> 工法の検討 : 護岸検討、河川法線の検討(一部区間)				評価	A
	緊急性	<input type="checkbox"/> 近年の自然災害の発生状況 : 床上床下浸水(R1.10) <input type="checkbox"/> 近年の防水回数 : 2回(H16.10.20、R1.10.11) <input type="checkbox"/> 現況流下能力 : 最小15% <input type="checkbox"/> 護岸等河川施設の種類 : 築堤・護岸				評価	A
	計画熟度	<input type="checkbox"/> 事業情報の共有 : 関係者以外にも周知 <input type="checkbox"/> 地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(各種協議会・同盟会や地元地区との現地調査) <input type="checkbox"/> 地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている <input type="checkbox"/> 住民との協働 : 住民独自の取組がある <input type="checkbox"/> PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 課題整理表 整理番号:4-1				評価	A
所管課の意見	浅川に合流する隈取川は、一部区間で天井川となっており、流下能力が不足していることから、早期の整備が必要であり、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【隈取川位置図】

長野県 隈取川

野町南郷

県道長野豊野線

しなの鉄道

浅川

新幹線

全体計画延長 L=810m

標準横断面

左岸 右岸

令和元年東日本台風 浅川流域浸水状況

現況河川断面状況(鉄道橋付近)

現況河川断面 W=2m H=1.5m程度

事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	浅川は、標高1,917mの飯綱山を水源とし、千曲川に合流する一級河川である。市街地化が進む浅川下流域では、溢水等により大規模な被害が度々発生しており、既往最大被害となった昭和58年9月台風10号、平成16年10月台風23号、令和元年10月東日本台風(台風19号)をはじめとして、度々浸水被害が発生している。こうした浅川流域での氾濫に対し、浅川ダム建設および河川改修と内水対策等の治水対策を進められてきた。浅川に合流する隈取川は、流下能力が不足しており、一部区間で天井川となっている。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	過去の浸水被害を受け、浅川関係の協議会や同盟会、地元地区から県へ河川改修事業促進についての要望がある。	
	③事業説明等の経緯	地元地区との合同現地調査等	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	<input type="checkbox"/> 平成20年6月に信濃川水系河川整備基本方針が策定(国土交通省北陸地方整備局) <input type="checkbox"/> 令和2年3月30日に浅川総合内水対策計画が策定(浅川総合内水対策協議会) <input type="checkbox"/> 今後、信濃川水系河川整備計画を変更予定(国土交通省北陸地方整備局)	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	自然環境に配慮した護岸形式の採用を検討する。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域の治水安全度が向上し、定住化等、地域の活性化が期待される。	
	⑦その他		
事後・再評価からのフィードバック	計画的に河川施設の点検を行い、効果を持続させる維持管理の取組みを参考にしたい	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 41' 59" 東経:E 138° 15' 38"